

シラバス

科目名	ビジネス法規	単位数	2 単位	学年・学科	3 年	流通・会計・情報 科		選択	
教科書名	ビジネス法規 (190東京法令出版 商業741)			副教材	なし				
科目の目標	(1) ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解する。 (2) 法的側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として法的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を育てる。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規にもとづくビジネスに主体的かつ協動的に取り組む態度を育てる。								
学習内容と進め方	テキストを中心に学習を進めていきます。また、課題の調査研究を進めて、仲間と協力・連携をして学習を深化させていきます。								
学習の留意点	学んだ知識をもとに、研究成果や疑問点について仲間たちと研究を深めてください。 ニュースや新聞などの時事問題につねに興味をもち、自ら調べる姿勢を身につけてください。 学校行事などにおいて、学んだ知識や技能を実践的に発揮できるように学びを深めてください。								
月	単元	予定 時数	学習内容	評価の観点			評価項目		
				1	2	3			
4	オリエンテーション	1							
	第1章 法の概要	13	第1節 ビジネスにおける法の役割 第2節 法の体系と解釈・適用 第3節 権利・義務と財産権	○	○	○	法の意義や、ビジネスにおける法の役割などについて理解します。 法の体系、法の種類および法の解釈・適用などについて理解します。 権利・義務の概要や、制限行為能力者制度などについて理解します。		
5			第3節 権利・義務と財産権		○		物権と債権の概要について理解します。		
	第2章 企業活動と法規	13	第1章 練習問題 第1節 契約	○	○	○	第1章の総まとめとして、練習問題に取り組みます。 契約自由の原則およびその制限について理解します。		
	前期中間考査	1		○					
6			第2節 企業活動における契約		○		意思表示の無効・取消し原因や、代理などについて理解します。 ビジネスにおける契約について理解します。		
7				○	○		債務不履行や、履行の強制などについて理解します。		
8					○		担保の意義と物的担保について理解します。		
9					○		非典型担保と人的担保について理解します。		
9	前期期末考査	1		○			債権の消滅事由について理解します。		
10		13	第3節 株式会社の特徴と機関	○			株式の譲渡および所有（資本）と経営の分離などについて理解します。 株式会社の機関設計などについて理解します。		
11			第4節 資金調達と金融取引 第5節 組織再編と清算・再建 第6節 競争秩序の確保	○	○	○	金融取引に関する法律の概要、金融商品に関するセーフティネットなどについて理解します。 組織再編と、事業譲渡・企業買収などについて理解します。 企業の清算・再建について理解します。		
	後期中間考査	1		○					
12			第6節 競争秩序の確保		○		企業活動を制限する法律の概要について理解します。 知的財産権の重要性および知的財産権侵害時の対抗手段などについて理解します。		
	第3章 税と法規	13	第2章 練習問題 第1節 税の種類と法人の納税義務 第2節 法人税の申告と納付 3節 消費税の申告と納付	○	○	○	第2章の総まとめとして、練習問題に取り組みます。 税の種類と分類、法人に対する税の概要、納税義務などについて理解します。 確定申告の流れと申告書の作成などについて理解します。 消費税の意義と商品税の申告・納付のしくみなどについて理解します。		
			第3章 練習問題	○			第3章の総まとめとして、練習問題に取り組みます。		
1	第4章 企業責任と法規	10	第1節 法令遵守 (コンプライアンス) 第2節 労働者の保護	○	○	○	コンプライアンスとアカウンタビリティについて理解します。 労働者の保護に関する法律の概要について理解します。 労働者保護に関する規定、労働者の保護に関する課題などについて理解します。		
2			第3節 消費者の保護 第4節 情報の保護 第5節 紛争の予防と解決	○	○	○	消費者の保護に関する法律の概要について理解します。 消費者の保護に関する課題などについて理解します。 情報の保護に関する法律の概要について理解します。 紛争の予防について理解します。		
					○		紛争の解決方法、裁判所の種類とその権限および紛争の解決などについて理解します。		
			第4章 練習問題	○			第4章の総まとめとして、練習問題に取り組みます。		
	学年末考査	1							
3	第5章 経済環境の変化と法	3	第1節 経済環境の変化と法 第5章 練習問題	○	○	○	経済環境の変化にともなう法の改正などについて理解します。 第5章の総まとめとして、練習問題に取り組みます。		

	(家庭学習期間)								
		計	70						
評価方法	(知識・技術) 定期考査、確認テスト プリント (思考・判断・表現) 資料分析 (主体的に学習に取り組む態度) プリント 時事研究(新聞まとめ) ノート整理(記録・まとめ)								
評価の観点	観点		趣旨						
	1	知識・技能	企業における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ法規に関する知識が身に付いている。						
	2	志向・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、ビジネスに関する法規をはじめとしたさまざまな知識などを活用し、法的側面からビジネスに関する課題を発見するとともに、ビジネスが社会に及ぼす影響を踏まえ、法的な根拠にもとづいて工夫してよりよく解決する力が身に付いている。						
	3	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら法規について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、法規にもとづくビジネスに責任をもって取り組む態度が身に付いている。						
評価基準	1	知識・技能	A 企業活動に係る法規について企業における事例と関連付けて理解している。 B 企業活動に係る法規について企業における事例と関連付けておおむね理解している。 C 企業活動に係る法規についての理解が不十分である。						
	2	志向・判断・表現	A 企業活動に関する課題を発見し、法的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善することができる。 B 企業活動に関する課題を発見し、法的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善することがある程度できる。 C 企業活動に関する課題を発見し、法的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善することができない。						
	3	主体的に学習に取り組む態度	A 企業活動に係る法規について自ら学び、法規に基づく適切な企業活動に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 B 企業活動に係る法規について自ら学び、法規に基づく適切な企業活動にある程度取り組もうとしている。 C 企業活動に係る法規について進んで学習せず、法規に基づく適切な企業活動に取り組もうとしていない。						